

## 第2回普賢寺小学校コミュニティ・スクール推進委員会 会議録

### 1 開会

### 2 公開に係る説明

#### 【事務局から説明】

### 3 議題

#### (1) コミュニティ・スクール研究大会の報告

#### 【事務局から説明】

#### 【主な意見等】

委員 地域の色々な大人が参加して子どもを育てるのがコミュニティ・スクール。

委員 シニアスクールという取り組みが紹介されていた。学校に関わることが自分自身の学びにもなっている。  
生涯学習の観点からも大事なことはないか。

委員 講演では、これから求められる人材像として、問題解決能力と高い倫理観が強調されていた。

#### (2) 地域人材を活用した特別授業と地域連携のあり方

#### 【事務局から説明】

#### 【主な意見等】

委員 「しめ縄作り」の授業をしているが、今は作っているだけ。  
「なぜ正月にしめ縄を飾るのか」といった歴史的な背景や由来も勉強できる機会になれば良い。

委員 「卒業証書作り」では障害がある青年が児童に教えている。  
過去に「ありがとう、先生」という声をかけてもらったことで自信を取り戻し、今ではある企業で正社員として働いている者もいる。意識はしていないだろうが、こういう事が本当のコミュニティ・スクールだろうし、大事にしていきたい。

- 委員 「不利益」という言葉があるが、不便であることを前提とした教育を与えていけば良い。  
しめ縄作りの話でもあったが、今までしてきたことの教育的なねらいを理論化する作業をして、子どもへ伝えていくべきでは。
- 委員長 児童数がどんどん減っているのが現状。  
普賢寺小学校の存続が前提ではあるが、減り続けると廃校もあり得る。  
地域の人々に危機感を持ってもらう、意識を高めてもらうことも並行して取り組んでいけたらと思っている。
- 委員 子どもが普段遊んでいる姿を見なくなった。孫が小学校に上がる頃どうなっているか心配している。
- 委員 地域の方に危機感をもってもらうためにも、児童数が減少することについて、学校だよりや祖父母参観の機会に伝えてほしい。
- 委員 普賢寺小学校の場合、中学校進学時に田辺中学校と生駒北中学校に分かれるので小中一貫は考えられない。  
一方、幼稚園が隣にあるので、9年間で考えた連携を強化すればどうか。  
児童数が少ないことを逆手にとった「縦割り」がしやすい。
- 委員 以前は幼稚園児と小学生が園庭などで一緒に遊んでいた。  
給食を一緒に食べるなど、もっと（幼稚園に）声を掛けてもらいたい。  
進学前の園児に小学校探検をさせてもらえれば嬉しい。
- 委員長 幼小一貫教育が可能であるのなら、一つの柱として取り組んでいきたい。
- 委員 知人が特認校制度で普賢寺小学校への入学を希望している。  
しかし、共働きであり、学童保育がない現状では断念せざるを得ない。  
何とか児童館で子どもを長く預かる環境を整備できないか。
- 委員長 学童やPTAの負担など、受入体制の問題も整理して考えていく必要がある。
- 委員 学童については、早期に結論をお願いしたい。

- 委員 特認校制度を意外と地元の方が知らないのではないか。  
日々の教育活動を多くの方に知ってもらうことが大事だと考え、今年度からは学校だよりを全戸配布し、また特別コーナーを設けるなど内容の充実にも取り組んでいる。
- 委員 学校だよりの特認保護者の記事を読むと、こういう時代だからこそ普賢寺小学校のような学校が大事になってくると思う。  
地域・学校・教育委員会が一体となって取り組んでいくべき。
- 委員長 特認校制度について、就学時健康診断でどのような案内をしているのか。
- 事務局 これまでは就学時健診当日にパンフレットを配布していたが、今年度からは案内時にもチラシを同封する予定。
- 委員 「特認校」という名称が分かりにくい。  
良いキャッチフレーズを。
- 委員 根本的には地域経済の衰退がある。市も普賢寺のプロジェクトを立ち上げているので、どうすれば地域で親と子が一緒に住むことができるかも考えないと。
- 委員 空き農地に定年退職者が来ても子どもは増えない。土地は安い  
のだから、若い人が住めるようなマンションや家を建てれば希望者はいるだろう。
- 委員 子どもが減っているのは普賢寺だけではないので、長いスパン  
で考えていくことが必要。
- 委員長 本推進委員会ではエリアマネジメントの視点も大事だと考えて  
いる。
- 委員 教員の人事について、市教育委員会に権限はないのか。  
同じ先生にできるだけ長く居てもらった方が良い。
- 委員 (普賢寺小学校の今後については) 2つのアプローチがある。  
一つは、地域の子どもをこれ以上減らさず、増やしていく対策。  
これを考えると、地域の活性化という大きな問題となり、コミ  
ュニティ・スクールもその中に位置付けられていくだろう。  
もう一つは、少子化の前提に立った上で、学校としてできるこ  
とを考えていくという視点。ここからは、幼小連携であるとか、  
ピアサポートとかの年齢を超えた交流が考えられる。  
先日の祖父母参観などを見ていると、普賢寺小学校は他のコミ

ユニティ・スクールに負けない取り組みをしているので、一つ一つ問題を解決していけば良い方向に進むのではないか。

(3) その他

【事務局から次回の開催日程を連絡】